

上毛かるたの遊び方

(一) 競技の心がけ

この「かるた」は、私達が楽しく遊びながら、私達の郷土である群馬県の歴史上有名な人物や、重要な産物、代表的な都市や、山と川、温泉等を正しく理解し、知らず知らずのうちに、郷土への知識を深め、郷土への愛情を高めていきたいと考えて、作ったものです。だからこの「かるた」で遊ぶ時は、勝敗にはこだわり、お互いの品性を高めるように、楽しく遊びましょう。

(二) 競技のやり方

ご家庭でされる場合には、この他にもいろいろなり方を考えて、お遊び下さい。

- 1、団体競技
(三人が二組となり、二組で勝負します。)
- 2、個人競技
(二人対二人で勝負をします。)

(三) 競技に必要な係員

- 1、進行係 一、二名
(競技をすすめていきますが人数が少ない場合は、「読み手」がかねることできます。)
- 2、読み手 一、二名
(読札をよむ)
- 3、審判員 各試合に一、二名
(競技を公平に審判する)

(四) 競技に用いる札

取札、読札とも四十四枚です。

(五) 競技の準備

- 1、先ず三人ずつ向い合つて一列にならびます。
この陣の中は、一・五メートル以内とし、この中の中に三人が適当な間をおき、両膝を揃えて、お尻は上げ、よい)坐ります。個人競技の札の中は、〇・五メートル以内とし、
- 2、進行係の合図で、真中にいる者が代表となつてジャンケンをし、勝つた者が札をよく切つて、二十二枚ずつに分けて、前におきます。ジャンケンに負けた者が先にどちらかをとり、勝つた者はあとから取ります。
- 3、札のならべ方

札は自陣の前に、団体の場合は二段、個人の場合は、三段にそれぞれ平均にならべます。両方の陣の間は、三センチ(畳の目三つ)はなし、各段の間及び左右の間は一センチほどあけ、札と選手の膝がしらとの間は、二十七センチ以上あけます。札のならべ方にいろいろ工夫を加えても、かまいません。但し、団体競技の特札は三人で平等に受け持つこと。(二人は八枚となる)

4、記憶時間

「かるた」をならべ始めてから五分間を記憶時間とします。この間に取札を記憶します。

(六) 競技開始

- 1、記憶時間が終わると競技に入ります。
- 2、先ず「読み手」が「空札」を二回読みます。空札には「つる舞う形の群馬県」の札を用います。二回目に読む「つる舞う形の群馬県」が予告に

- なり、三回目に読む札から取りはじめます。その後、今取つた札を予告として、今一度くり返して読み、最後までその形で続けます。
- 3、競技中は勝手に札の位置を変えてはいけません。札の空いた所ができて、札の位置を変えた時には相手方の了解が必要です。
- 4、取札が最後の二枚になったら、どちらの札が残つても、横に三センチ離してならべ、各組の代表一名ずつで、この札を争い、一枚をとつた者が残りの一枚も取ります。

(七) 採点

採点の計算は、一枚一点とします。但し、団体競技の場合は、次のような「やく札」があります。

- 親札 **つちけ** の三枚で十
×〇五市札 **わかめぎけ** の五枚で二十点 **中**
×〇三山札 **すもの** の三枚で十 **小**
「やく札」は揃わなければ、一点として計算します。

個人競技には「やく札」はありません。団体・個人とも同点の場合は、「つ」の札のある方を勝とします。

(八) 競技上の注意

- 1、札を取る時は、押えても、はじいても、押しでも引いてもよいです。
(札に指が早く触れた方が勝なのです。)
- 2、両手を使つたり机の上にかぶさつてはいけません。使わない方の手は膝から前に出さないようにし、使う手も札が読まれるまでは、膝の上におきま
- 3、お手つき
自分の陣でも、相手の陣でも、読まれた札のない方をついたら「お手つき」として、取つた札の中から一枚を相手にやります。味方の三人がそれぞれ同時に「お手つき」しても、相手に渡す札は「一枚」でよいです。
- 4、あいこ
両方の手が重なつたら、下の手の者が取ります。同時の時には、持札の者にゆずります。但し、その札が「やく札」の時には「審判あずかり」とします。
- 5、競技の始めと終りには、お互いに「札」をか
- 6、わしませよう。相手にも不満があつても、直接「言い争い」をしないで、審判を通じて堂々と意見をのべましよう。

郷土の歴史と地理をよみこんだ
美しい たのしい かるた
解説付
上毛かるた
原色刷箱入
頒布価格
762円(税別)

発行所 群馬県

前橋市大手町一丁目一番二号
〇二七一二三二二二二(代)

印刷所 上武印刷株式会社

〇二七三二五二七四四五

「上毛かるた」は著作権上、無断で複写、複製することは禁じられています。

発行日 平成二十五年十二月一日